

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	乱獅子 直由美				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	医療現場のグローバル化が進む中、医学英語の必要性を踏まえ、前期、後期を通して医学と医療の基本である人体の主要な組織の構造と機能を中心に記述された文献で医療英語特有の語彙や表現に慣れ、読解力の養成と、医学英単語並びに英文解釈を学習する。また、鍼灸及びマッサージ施術時の実践フレーズ(シンプルな英語での)及び関連表現等用いて、基礎的コミュニケーション能力の養成を目的とする。 いずれも筆記中心の授業内容とし、各章の復習問題を通して簡単な英訳、英作文等の習熟も目指す。 但し、対面授業の際には、英文の音読、実践フレーズの練習を通して発音、イントネーションの習熟も目指す。				
教 科 書	教科書は指定しない。読解、実践フレーズ共にプリント教材を配布。その他必要に応じて適宜プリントを配布。				

具体的な到達目標	
目標 1	医学英単語の正しい発音、意味、構成の習得。
目標 2	人体における各器官、組織の構造と機能の概要の習得。
目標 3	基本的な構文、文法、イディオム(熟語)を理解し、読解力を養う。
目標 4	日常の施術前後、施術中で想定されるシチュエーションに対しての実践フレーズの習熟
目標 5	「読む」「書く」「話す」「聞く」の4 技能を身につけ、英語コミュニケーション能力を高める。
目標 6	
目標 7	
目標 8	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	9 0 %		9 0 %		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	1 0 %	算出方法 全出席を 10 としての出席率	1 0 %	算出方法 全出席を 10 としての出席率	
その他	算出方法		算出方法		
試験日	後日伝達		後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション(授業概要、進め方 自己紹介(英語)) Phonetic Sign(発音記号)学習 音素の分類、母音、子音の発音練習(単語の発音を使用)	
2		The Human Body(人体) 体の各部名称及び新出単語の発音と意味 The Human Body(人体) 前書き部分 身体は何から構成されているか? 施術時の実践フレーズ 1, 2, 3	英単語調べと本文和訳
3		The Human Body(人体) 細胞について 施術時の実践フレーズ 4, 5	英単語調べと本文和訳
4		The Human Body(人体) 組織、器官 体系について The Human Body(人体) 復習問題 施術時の実践フレーズ 6, 7	英単語調べと本文和訳
5		The Digestive System(消化器系) 消化器官の名称及び新出単語の発音と意味 The Digestive System(消化器系) 歯と唾液腺の形状と働き 施術時の実践フレーズ 8, 9, 10	英単語調べと本文和訳
6		The Digestive System(消化器系) 食道と胃の形状と働き The Digestive System(消化器系) 小腸の形状と働き 施術時の実践フレーズ 11, 12,	英単語調べと本文和訳
7		The Digestive System(消化器系) 小腸の形状と働き(第6回の続き) The Digestive System(消化器系) 大腸の形状と働き と 復習問題 施術時の実践フレーズ 13, 14,	英単語調べと本文和訳
8		The Respiratory System(呼吸器系) 呼吸器官の名称及び新出単語の発音と意味 The Respiratory System(呼吸器系) 肺の形状、位置等 施術時の実践フレーズ 15, 16,	英単語調べと本文和訳
9		The Respiratory System(呼吸器系) 肺の内部の構造、 呼吸と吸息に関して 施術時の実践フレーズ 17, 18,	英単語調べと本文和訳
10		The Respiratory System(呼吸器系) 呼吸と吸息に関して第9回の続き) 施術時の実践フレーズ 19, 20	英単語調べと本文和訳
11		The Respiratory System(呼吸器系) 肺胞の構造と働き 施術時の実践フレーズ 21, 22, 23	英単語調べと本文和訳
12		The Respiratory System(呼吸器系) 復習問題 施術時の実践フレーズ 24, 25	英単語調べと本文和訳
13		医学英単語の複数形についての説明(補足プリントに沿って) 前期学習内容の復習(読解、実践フレーズ) 前期期末試験範囲についての説明	補足プリント(医学英語の複数形)
14		前期期末試験対策 前期期末試験用練習問題プリント 解答と解説 前期期末試験に関して概略説明(各クラス試験範囲等)	
15		前期期末試験の答案返却と解答合わせ、解説	
16		The Skeletal System(骨格系) 各骨の名称及び新出単語の発音と意味 The Skeletal System(骨格系) 骨組織の構造、骨の形状	英単語調べと本文和訳

		施術時の実践フレーズ 26, 27	
17		The Skeletal System(骨格系) 骨格の種類等 骨の構造(長骨)の名称説明 復習問題(骨) 施術時の実践フレーズ 28, 29	英単語調べと本文和訳
18		The Skeletal System(骨格系) 新出単語の発音と意味 関節の種類等 施術時の実践フレーズ 30, 31	英単語調べと本文和訳
19		The Skeletal System(骨格系) 可動関節について 関節の機能、関節の疾患 施術時の実践フレーズ 32, 33, 34	英単語調べと本文和訳
20		The Skeletal System(骨格系) 復習問題(関節) The Muscular System(筋肉系) 各筋肉の名称及び新出単語の発音と意味 施術時の実践フレーズ 35, 36	英単語調べ
21		The Muscular System(筋肉系) 筋肉に関する概略、筋肉の種類と特徴 施術時の実践フレーズ 37, 38	英単語調べと本文和訳
22		The Muscular System(筋肉系) 腱の特徴について The Muscular System(筋肉系) 靱帯の特徴について 施術時の実践フレーズ 39, 40, 41	英単語調べと本文和訳
23		The Muscular System(筋肉系) 筋肉による体内、体外の運動について 施術時の実践フレーズ 42, 43	英単語調べと本文和訳
24		The Muscular System(筋肉系) 復習問題 The Circulatory System(循環系) 血管の名称及び新出単語の発音と意味 施術時の実践フレーズ 44, 45	英単語調べと本文和訳
25		The Circulatory System(循環系) 心臓、動脈、静脈について 施術時の実践フレーズ 46, 47	英単語調べと本文和訳
26		The Circulatory System(循環系) 血液循環と血液の成分について 施術時の実践フレーズ 48, 49	英単語調べと本文和訳
27		医学英単語の構成についての説明(補足プリントに沿って) 施術時の実践フレーズ 50	補足プリント(医学英語の構成)
28		The Circulatory System(循環系) 復習問題 後期学習内容の復習(読解、実践フレーズ)	
29		後期期末試験対策 後期期末試験用練習問題プリント 解答と解説 後期期末試験に関して概略説明(各クラス試験範囲等)	
30		後期期末試験の答案返却と解答合わせ、解説	

その他の事項

医学英単語並びに医療に関する文章はやや複雑で発音等も難しいことが多いので、必ず辞書(電子辞書でもOK)を準備して下さい。

英文は英単語の発音を確認しながら必ず音読をして、内容の予習、復習はしっかりとして下さい。

前期、後期の期末試験は筆記試験となるので、教材の中での英問英答、英単語、実践フレーズで扱う英語表現等は英語を書く練習も日頃からして下さい。対面授業の際、実践フレーズ、関連表現等をお互いに声に出して練習する時間帯も作りたいと思います。

授業概要					
学 科	第 2 鍼灸科	学 年	2 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	40	実施時間数	40
担当教員	玉木 敬二				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	解剖学は人体の構造について学ぶ学問であり、医学の基礎となる科目のひとつです。他の科目を学ぶ上で土台となることはもちろんですが、その知識は臨床現場や他医療職種と連携する上でも大変重要となってきます。 本授業においてはその解剖学のうち「神経系」「感覚器系」「内分泌系」「生殖器系」について重点的に学習をします。国家試験に対応できる知識の獲得はもちろんのこと、前述のように他科目及び臨床・実技授業においてもその知識を活用できるようになることを目的とします。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、解剖生理、医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	中枢神経系の構造やその特徴を理解し、説明することができる。
目標 2	末梢神経系の構造やその走行を理解し、説明することができる。
目標 3	各種感覚器についてその構造の特徴を理解し、説明することができる。
目標 4	内分泌系の構造を理解し、説明することができる。
目標 5	生殖器系の構造を理解し、説明することができる。
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバス・科目概要説明 第3章 神経系 神経系と神経組織	
2		第3章 神経系 中枢神経系①（大脳）	
3		第3章 神経系 中枢神経系②（間脳、脳幹）	
4		第3章 神経系 中枢神経系③（脊髄）	
5		第3章 神経系 中枢神経系④（中枢神経系の保護と栄養）	
6		第3章 神経系 伝導路と運動調節①（運動性の下行路）	
7		第3章 神経系 伝導路と運動調節②（感覚系の伝導路）	
8		第3章 神経系 末梢神経系①（脳神経①）	
9		第3章 神経系 末梢神経系②（脳神経②）	
10		第3章 神経系 脊髄神経①	
11		第3章 神経系 脊髄神経②	
12		第3章 神経系 脊髄神経③・自律神経系	
13		第4章 感覚器系 視覚	
14		第4章 感覚器系 聴覚・平衡感覚	
15		第4章 感覚器系 味覚・嗅覚・体性感覚と表在感覚①	
16		第4章 感覚器系 体性感覚と表在感覚②・痛覚	
17		第10章 内分泌系と体温 視床下部と下垂体・甲状腺と副甲状腺①	
18		第10章 内分泌系と体温 甲状腺と副甲状腺②・ランゲルハンス島・副腎	
19		第11章 生殖・身体に加齢変化 女性生殖器	
20		第11章 生殖・身体に加齢変化 男性生殖器	
その他の事項			
1年次に履修をしている生理学Ⅱで学んだ器官の構造について学習する箇所が多いため、事前に復習しておいていただけるとスムーズに学習に取り組めると思います。			

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	2 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	40	実施時間数	40
担当教員	奥村 清和				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	所定の教科書を利用して、その章の基準に従って授業を進めていきます。生徒のみなさんに教科書を読んでもらって、それに対して、説明・解釈を加えていきます。また、必要に応じて、自作のスライドを見てもらいながらの説明もあります。				
	基礎医学である生理学を学習し習得することにより、他の科目や臨床への応用が期待できる。				
教 科 書	生理学 第3版 医歯薬出版				

具体的な到達目標	
目標 1	人体各部の機能を習得する。
目標 2	習得した系統をつなぎ合わせて、理解を深める。
目標 3	他の科目や臨床に応用できるようにする。
目標 4	
目標 5	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	100%				
平常点	なし	算出方法	なし	算出方法	
出席点	なし	算出方法	なし	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	後日伝達				

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第2章 運動器系、筋線維と筋原線維、筋収縮の仕組み①	
2		筋収縮の仕組み②	
3		筋収縮のエネルギー代謝、等張性収縮と等尺性収縮、筋電図	
4		単収縮と強縮、運動時の各器官の働き、赤筋と白筋	
5		第3章 神経系、骨格筋の神経支配、 α 運動線維と運動単位	
6		筋紡錘と腱器官	
7		運動反射、脊髄反射	
8		姿勢反射、その他の反射、運動の調節	
9		第4章 感覚器系、感覚の一般的性質・種類・特徴	
10		視覚、視力、遠近の調節、明るさの調節	
11		視野、色覚、眼球に関する反射	
12		聴覚、聴力	
13		平衡感覚の調節、姿勢の調節、平衡感覚による反射	
14		味覚の性質と舌の体性感覚、嗅覚の性質	
15		体性感覚、表在感覚（皮膚感覚）、深部感覚、内臓感覚	
16		痛覚①	
17		痛覚②、筋性防御	
18		第6章 血液と免疫（免疫）、概要、免疫に働く白血球・液性因子	
19		様々な免疫応答	
20		予備	
その他の事項			

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	村上 朱保				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	はり師、きゅう師、あんまマッサージ指圧師は、臨床治療を安全かつ効果的に実践する必要がある、西洋医学においても適切な治療法を理解し、主たる症候に精通しておくことが必要とされる。誤った判断に基づいた医療を行えば効果が無いばかりか、かえって有害事象が発生する可能性も考えられる。そのため本授業でははり師、きゅう師、あんまマッサージ指圧師の患者との医療面接とその技法、診察法、各種検査、症候について学習する。				
教 科 書	医歯薬出版株式会社 臨床医学総論 第2版				

具体的な到達目標	
目標 1	西洋医学の診察の意義と内容、および用語を説明することができる。
目標 2	西洋医学の医療面接、視診、触診、打診、聴診、神経系の診察についてその意義と方法を説明することができる。
目標 3	生命徴候について説明することができ、その結果の示す病態、および可能性のある疾患を判別することができる。
目標 4	全身および身体局所の視診、触診、打診、聴診の結果の示す病態、および可能性のある疾患を判別することができる。
目標 5	神経系の診察の意義、内容とその方法を説明することができ、その結果の示す病態および可能性ある疾患を判別できる。
目標 6	運動機能検査の意義、内容とその方法を説明することができ、その結果の示す病態および可能性ある疾患を判別できる。
目標 7	救急時の診察方法、および救急処置について説明することができる。
目標 8	画像診断を含む臨床検査の意義、内容を説明することができ、その結果の示す病態、可能性のある疾患を判別できる。
目標 9	主な症状の病態生理、分類、原因疾患、検査と、鑑別診断、治療について説明することができる。
目標 10	治療の意義と種類、内容について説明することができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	100%		100%		
平常点	0%	算出方法	0%	算出方法	
出席点	0%	算出方法	0%	算出方法	
その他	算出方法		算出方法		
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	臨床検査技師、はり師きゅう師、臨床検査技師業務 10 年 9 か月、鍼灸臨床 12 年、中医学博士、中医師インターン 5 年、教員経験 9 年。
実務経験をいかした教育内容	西洋医学における主な症状や診察法、または臨床検査について、その内容や意義、鑑別方法を説明する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション. 第1章 ～ 第2章診察の方法 1. 医療面接	
2		第2章診察の方法 2. 視診 ～ 第3章生命徴候の診察 1. 体温	
3		第3章生命徴候の診察 2. 脈拍 ～ 4. 呼吸	
4		第3章生命徴候の診察. 4. 呼吸 ～ 第4章全身の診察. 4. 言語	
5		第4章全身の診察 4. 身体測定 ～ 7. 姿勢と体位	
6		第4章全身の診察 5. 歩行 ～ 9. 皮膚、粘膜、皮下組織 2) 続発疹	
7		第4章全身の診察 9. 皮膚、粘膜、皮下組織 3) 血管拡張 ～ 第5章局所の診察 2. 顔面	
8		第5章局所の診察 3. 眼(1)目の診察 ～ 6. 口腔(4)舌の異常	
9		第5章局所の診察 6. 口腔(5)口腔粘膜の異常 ～ 11. 心臓	
10		第5章局所の診察 12. 腹部 ～ 13. 背部	
11		第5章局所の診察 14. 四肢 ～ 第6章神経系の診察(4)脊髄神経デルマトーム	
12		第6章神経系の診察(5)深部感覚検査 ～ 2. 反射検査 5) 自律神経反射	
13		第6章神経系の診察 2. 反射検査6) 病的反射 ～ 第7章運動機能検査 1. 運動麻痺	
14		第7章運動機能検査 2. 筋肉の異常 ～ 8. 日常生活動作	
15		前期テスト解説	
16		第7章運動機能検査 9. 徒手による整形外科的検査法	
17		第7章運動機能検査 9. 徒手による整形外科的検査法	
18		第7章運動機能検査 9. 徒手による整形外科的検査法	
19		第8章その他の診察1. 救急時の診察 ～ 第9章臨床検査法. 1. 一般検査	
20		第9章臨床検査法. 1. 一般検査 ～ 3) 血液検査の概要 3) 白血球数、分類	
21		第9章臨床検査法. 3) 血液検査の概要(5)血小板 (17) 抗ストレプトキナーゼ	
22		第9章臨床検査法. 血液生化学検査3) 生理学検査および画像診断の概要 ～ 基準値一覧	
23		第9章臨床検査法. 血液生化学検査 基準値一覧 ～ 第10章主な症状の診察法. 1. 頭痛	
24		第10章主な症状の診察法. 2 顔面痛 ～ 11. 動悸	
25		第10章主な症状の診察法. 12. 胸痛 ～ 18. 排尿障害	
26		第10章主な症状の診察法. 19. 乏尿・無尿 ～ 29. 食欲不振	
27		第10章主な症状の診察法. 30. 肥満 ～ 39. 易感染性	
28		第10章主な症状の診察法. 40. 貧血 ～ 49. 意識障害	
29		第11章治療学、第12章治療法の種類と意義、評価法の種類	
30		後期テスト解説	

その他の事項

授業進度が多少前後する可能性があります。ご了承ください。

授業概要					
学 科	第 2 鍼灸科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	8 0	実施時間数	8 0
担当教員	金井 優也				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	はきの施術を行う上で、各疾患の現代医学的な成因、病態、症候、診断および治療について理解する。				
	また、本授業の履修により、臨床現場におけるはき施術の適否・各疾患の鑑別の説明、治療の方針の検討を行うことを目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論 第 2 版、医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	第 1 章感染症に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 2	第 2 章消化管疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 3	第 3 章肝胆膵疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 4	第 4 章呼吸器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 5	第 5 章腎尿器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 6	第 6 章内分泌疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 7	第 7 章代謝栄養疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 8	第 8 章整形外科疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %	1 0 0 %	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション、シラバスについて、整形外科疾患総論	
2		関節疾患（関節炎、関節可動域の異常、痛風・偽痛風）	
3		関節疾患（いわゆる五十肩、変形性関節症）	
4		骨代謝性疾患・骨腫瘍について（骨粗鬆症、くる病・骨軟化症、骨腫瘍）	
5		筋・腱疾患（筋肉炎・筋膜炎、腱鞘炎、重症筋無力症、腱板損傷）	
6		形態異常（先天性股関節脱臼、斜頸、側弯症、外反母趾、内反足、発育性股関節形成不全、後弯症）	
7		脊椎疾患（椎間板ヘルニア）	
8		脊椎疾患（後縦靱帯骨化症、脊椎分離・すべり症、黄色靱帯骨化症、変性すべり症）	
9		脊椎疾患（頸部変形性脊椎症、腰部変形性脊椎症）	
10		脊椎疾患（頸部脊柱管狭窄症、腰部脊柱管狭窄症、腰痛症、頸椎捻挫、むちうち）	
11		脊髄損傷、外傷（骨折、脱臼、捻挫、スポーツ外傷・障害）	
12		その他の整形外科疾患（胸郭出口症候群、頸腕症候群・頸肩腕症候群、ガングリオン、手根管症候群）、糖代謝異常について（糖尿病、低血糖症）	
13		脂質代謝異常（高脂血症・脂質異常症、肥満症、るいそう）、尿酸代謝異常（高尿酸血症、痛風）、金属代謝異常（ヘモクロマトーシス、亜鉛欠乏症）その他の代謝異常（ビタミン欠乏症・過剰症、骨軟化症（くる病）、メタボリックシンドローム）	
14		下垂体疾患（クッシング病、先端巨大症、巨人症、成長ホルモン分泌不全性低身長症、尿崩症、高プロラクチン血症、非機能性下垂体腺腫（シモンズ病）、シーハン症候群）	
15		甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、慢性甲状腺炎（橋本病）、甲状腺癌、副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症）、膵内分泌性疾患（インスリノーマ、グルカゴノーマ、ガストリノーマ）	
16		副腎疾患（副腎皮質機能亢進症、原発性アルドステロン症、副腎皮質機能低下症、褐色細胞腫）	
17		第6章、第7章、第8章まとめ	
18		定期試験	
19		感染と病態（感染経路）、細菌感染症（猩紅熱、百日咳、ジフテリア、破傷風、ブドウ球菌感染症、細菌性食中毒、細菌性赤痢、コレラ、腸チフス・パラチフス、肺炎球菌感染症、緑膿菌感染症、レジオネラ症）について	
		ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、単純ヘルペス感染症、水痘・帯状疱疹、コクサッキーウイルス感染症、アデノウイルス感染症、ヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-1）感染症、ヒトパピローマウイルス感染症、ノロウイルス感染症）	
20		性感染症（梅毒、淋病、性器クラミジア感染症、エイズ）、その他（マイコプラズマ感染症、真菌感染症）	
21		口腔疾患（歯周病、顎関節症、その他の口腔疾患）について	
22		食道疾患（食道癌、食道炎・食道潰瘍、その他の食道疾患）について	

23	胃・十二指腸疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、その他の胃・十二指腸疾患）
24	腸疾患（急性腸炎・感染性腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群、虫垂炎、大腸癌、腸閉塞・イレウス、便秘症、鼠径ヘルニア、その他の腸疾患）について
25	腹膜疾患（急性腹膜炎、結核性腹膜炎、癌性腹膜炎）について
26	肝臓疾患（急性肝炎、慢性肝炎、薬物性肝障害、アルコール性肝障害、肝硬変・門脈圧亢進症、肝癌、肝血管腫、肝嚢胞、その他の肝疾患）について
27	胆道疾患（胆石・胆嚢炎・胆管炎、胆嚢癌・総胆管癌、その他の胆嚢疾患）について
28	膵臓疾患（急性膵炎、慢性膵炎、膵癌）について
29	感染性呼吸器疾患（上気道炎（かぜ症候群）、急性気管支炎、肺炎、肺結核、肺非結核性抗酸菌症）について
30	閉塞性呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD））について
31	アレルギー性疾患（気管支喘息）について
32	拘束性疾患（特発性肺線維症）について
33	その他の呼吸器疾患（気胸、肺癌、気管支拡張症、薬剤性肺傷害、珪肺・アスベスト肺、胸膜中皮腫、肺塞栓症、肺水腫、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群）について
34	原発性糸球体腎炎（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症）について
35	腎不全（急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎臓病、腎硬化症）について
36	感染症（腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎）、排尿機能障害（過活動膀胱）
37	腫瘍性疾患（腎腫瘍（腎細胞癌））、結石症（腎・尿管結石）、前立腺疾患（前立腺炎、前立腺肥大、前立腺癌）、その他（勃起障害）について
38	第1～5章まとめ①
39	第1～5章まとめ②
	定期試験
40	まとめ

その他の事項

担当教員アドレス：y-kanai@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	井口 智弘				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	前半は1年次に学習した東洋医学の知識の重要な項目を再学習し、それに加えて新たな範囲を学習する。その身につけた知識を、あはき実技（特に臨床診断学）に活用し、知識を臨床に活かせるように身につけることを目標とする。後半では、昭和初期の鍼灸師らの著書を参考に、東洋医学の特徴である「全体的治療の概念」や「体壁における診断」、臨床所見から東洋医学的にどう考え、どのように弁証を立てていくのかを学習する。				
教 科 書	教科書検討小委員会 and 東洋療法学校協会, 東洋医学概論：新版, 医道の日本社, 2015 （参考図書） 矢野, 忠 and 坂井, 友実 and 北小路, 博司 and 安野, 富美子, 図解鍼灸療法技術ガイド：鍼灸臨床の場で必ず役立つ実践のすべて, 文光堂, 2012 李, 世珍 and 李, 伝岐 and 李, 宛亮 and 兵頭, 明, 中医鍼灸臨床発揮, 東洋学術出版社, 2002 上地, 栄, 昭和鍼灸の歳月：経絡治療への道, 續文堂出版, 1985				

具体的な到達目標	
目標 1	東洋医学の基礎を理解し説明できる。
目標 2	四診について理解し、望・聞・問・切について説明できる。
目標 3	精・気血津液と神の生理について理解し説明できる。
目標 4	蔵象論について理解し説明できる。
目標 5	経絡の概念を理解し、経絡の構成を説明できる。
目標 6	全身の気機を理解し、相互関係の特徴を説明できる。
目標 7	弁証方法を列挙できる。弁証方法の違いを説明できる。
目標 8	複合病症が理解できる。
目標 9	古代九鍼・刺法について説明できる。
目標 10	日本の東洋医学の現状と日本の東洋医学の多様性を理解する。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	8 0 %		8 0 %		
平常点	0 点	算出方法	0 点	算出方法	
出席点	0 点	算出方法	0 点	算出方法	
その他	2 0 %	算出方法	夏季課題	2 0 %	算出方法 冬季レポート
試験日					

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験

実務経験	有 ☒	無 ☐
教員の实務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて2年間の実務経験あり。 大学院鍼灸センターにて2年間、往診専門で4年間の実務経験あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。	
実務経験をいかした教育内容	臨床の現場や医療介護での実務経験から、西洋医学とは違う東洋医学的な視点（養生や未病といった考え方）が、今後の医療・介護業界では必要になり、鍼灸師がそれを担う存在である考えます。臨床の現場で活かせる東洋医学的な思考方法を講義してきます。	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、授業ガイダンス、東洋医学の仕組み	
2		望診・聞診：舌診、五行を用いた診断法、臨床上の扱い、舌診（形態、病態）	
3		問診：臨床に即した問診方法、主訴の問診とレッドフラッグ・イエローフラッグの鑑別	
4		問診：臨床に即した問診方法、東洋医学の問診（基本的問診事項）	
5		切診：脈状診、六部定位脈診、三部九候診、人迎脈口診	
6		切診：『難経』の腹診、『傷寒論』の腹診、募穴診、夢分流腹診	
7		陰陽学説、五行学説、五行の性質、色体表	
8		気血水（津液）についてとその病状	
9		蔵象学説・五蔵（肝・胆、心・小腸）	
10		五蔵（脾・胃、肺・大腸）	
11		五蔵（腎・膀胱、三焦、奇恒の腑）	
12		五蔵の相互関係	
13		全身の気機・	
14		経絡、病因・病機	
15		前期まとめ	
16		弁証の種類、八綱弁証	
17		八綱弁証・気血津液弁証	
18		臓腑弁証・経絡弁証・六淫弁証	
19		六経弁証・衛気営血弁証・三焦弁証	
20		経脈・絡脈・皮部・経筋	
21		複合病症	
22		複合病症	
23		弁証論治	
24		弁証論治	
25		弁証論治の進め方と証の決定	
26		古代九鍼・刺法	
27		後期まとめ	
28		東洋医学の歴史	
29		日本鍼灸の多様性Ⅰ	

その他の事項

授業の概要 毎時間教科書及び配布資料を用いた講義

受講するうえでの決まり事

スマートフォンや携帯電話について：講義中の録音・撮影は不可。携帯電話等はマナーモードに設定のこと。

配布資料：配布資料は、教科書と同様、毎時間持参すること。紛失した場合の追加での印刷は行わない。

その他：著しく授業を妨害する行為、または教員の指示に従わないと判断した際、退室を命じる場合がある。

成績評価 前期：試験点数100点満点で80%換算。試験点数が6割に満たない場合0点となり再試験とする。 夏季課題20%

後期：試験点数100点満点で80%換算。試験点数が6割に満たない場合0点となり再試験とする。 冬季レポート20%

担当教員からのメッセージ

「東洋医学Ⅱは、患者さんの訴える病態を東洋医学的に考え、患者さんへ説明する為の力を付ける機会として位置付けています。

教科書を基本とし講義を行います。東洋医学はイメージや感覚的な部分が含まれています。東洋医学の根本となる東洋思想（東洋医学的な考え方）をふまえて講義を行いますので、苦手だと感じている方も、この講義をきっかけに東洋医学が身近なものであると感じてもらい授業を展開します。」

質問などがある場合、アンケートまたは、メールアドレスに送ってください。

アドレス：t-iguchi@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	第 2 鍼灸科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	高橋 佑輔				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	我が国が健康の保持増進のために、それぞれの家庭・学校・職場・地域社会・生活環境、食事と栄養、運動と休養、メンタルヘルス、法律・制度 をどのように発展させ活かしてきたのかの概要を学び、衛生学・公衆衛生学の現代の活動と意義について学習するとともに、鍼灸師、あま指師として必要な事項についても学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編「衛生学・公衆衛生学 第 2 版」(医歯薬出版)				

具体的な到達目標	
目標 1	衛生学・公衆衛生学の歴史および意義について、説明することができる。
目標 2	健康およびその管理について、食品・栄養・運動と健康との関わりについて説明することができる。
目標 3	日常生活環境、環境問題と健康との関わり、労働環境などと健康との関わりについて説明することができる。
目標 4	精神の健康と精神障害について説明することができる。
目標 5	母子保健、学校保健について説明することができる。
目標 6	成人・高齢者保健、生活習慣病などについて説明することができる。
目標 7	感染症とその対策、消毒法について説明することができる。
目標 8	疫学、保健統計について説明することができる。
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %	1 0 0 %	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、第1章 衛生学・公衆衛生学の意義	
2		第2章 健康（1. 健康の概要）	
3		第2章 健康（2. 健康管理）	
4		第3章 ライフスタイルと健康（1. 食品と栄養、1）～4）	
5		第3章 ライフスタイルと健康（1. 食品と栄養、5）食中毒 2. 運動と栄養）	
6		第4章 環境と健康（1. 環境とは 2. 日常生活環境、1）物理的環境要因）	
7		第4章 環境と健康（2. 日常生活環境、2）化学的環境要因）	
8		第4章 環境と健康（2. 日常生活環境、3）生物学的環境要因 3. 環境問題）	
9		第5章 産業保健（1. 産業保健の意義～4. 労働災害とその対策）	
10		第5章 産業保健（5. 業務上疾病とその対策）	
11		第6章 精神保健（1. 精神保健の意義～3. 精神障害の現状と分類）	
12		第6章 精神保健（3. 精神障害の現状と分類）、第7章 母子保健	
13		第7章 母子保健	
14		第1章～第3章 練習問題など	
15		第4章～第7章 練習問題など	
16		第8章 学校保健（1. 学校保健法の意義～3. 保健教育）	
17		第8章 学校保健（4. 保健管理～6. 学齢期の健康状態）	
18		第9章 成人・高齢者保健（1. ～3. 生活習慣病の特徴とその対策）	
19		第9章 成人・高齢者保健（4. ～6. 難病対策の現状）	
20		第10章 感染症とその対策（1. 感染症の意義と種類）	
21		第10章 感染症とその対策（2. 発生要因～4. 免疫）	
22		第11章 消毒法（1. 消毒一般。2. 消毒の種類）	
23		第11章 消毒法（3. 消毒の実際～5. 医療廃棄物）	
24		第12章 疫学	
25		第13章 保健統計（1. 保健統計の意義、2. 主な保健統計、3. 主要な保健統計指標）	
26		第8章～第9章 練習問題など	
27		第10章～第11章 練習問題など	
28		第12章～第13章 練習問題など	
29		全章のまとめおよび国家試験での出題傾向	
30		臨床上必要な感染対策・消毒	

その他の事項

定期的に復習をしてください。

○連絡先

takahashi@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	第 2 鍼灸科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	9 0 時間	実施時間数	9 0 時間
担当教員	(前期) 前田 / 岩本 (後期) 下宮 / 井口				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	東洋医学的理論に基づく鍼灸施術を行うためには、弁証に応じた選穴や状態に応じた刺鍼・施灸方法を選択する必要がある。一方、現代医学的理論に基づく鍼灸施術を行うためには、筋肉や神経に対して適切な刺鍼・施灸方法の選択が求められる。そのため、本授業では両アプローチに必要な知識、技術を養い、臨床現場における施術のための実践力を身に着ける。また通年に渡り、はりきゅう基礎実技を適宜取り入れ正確・スムーズにはりきゅう実技が出来るようにする。				
教 科 書	教科書は特に指定しない。適宜プリントを配布する。				

具体的な到達目標	
目標 1	目的の深度、角度にステンレス鍼を刺入することができる。
目標 2	安全かつ正確に交互施灸を行うことができる。
目標 3	弁証に応じた要穴の選択および配穴ができる。
目標 4	弁証に応じた刺鍼・施灸方法の選択ができ、実践することができる。
目標 5	施術を対象とした筋肉や神経の位置を体表面から推察することができる。
目標 6	筋肉や神経へ施術するための経穴が選択できる。
目標 7	筋肉や神経へ施術するための刺鍼・施灸方法の選択ができ、実践することができる。
目標 8	衛生的な施術をすることができる。

評価と試験						
前 期				後 期		
試験成績	5 5 %			5 5 %		
平常点	1 5 %	算出方法	その他の事項に記載	1 5 %	算出方法	その他の事項に記載
出席点	3 0 %	算出方法	1 欠席につき 3 点減点	3 0 %	算出方法	1 欠席につき 3 点減点
その他	算出方法			算出方法		
試験日	後日伝達			後日伝達		

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔下宮〕はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて 4 年間の経験あり。他校附属治療院にて 6 年間 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で 2 年の実務経験あり。本校附属治療所で 3 年間の 実務経験あり。 〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて 2 年間の実務経験あり。 大学院鍼灸センターにて 2 年間、往診専門で 4 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 2 年間の実務経験あり。 〔前田〕はり師・きゅう師免許を有する。往診にて 3 年間、教員養成科附属治療所にて 2 年間、本校付属治療所にて 5

		年間、鍼灸院にて５年間の実務経験あり。	
実務経験をいかした教育内容		鍼灸師にとって必要な東洋医学的理論に基づく治療配穴や刺鍼および施灸方法とその刺激の調整について教育する。 また、西洋医学理論に基づく筋肉や神経に対して、適切な鍼の深度と角度で施術ができ、必要に応じて施灸をすることができるよう教育する。	
授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		授業ガイダンス、はりきゅう基礎実技復習１（直刺・斜刺および交互施灸） 基礎練習：刺鍼練習台・施灸板	岩本
		腹部への鍼灸実技（直刺・斜刺/施灸） 腹部（上腹部・下腹部）、足三里、合谷	前田
2		腹部への刺鍼（中脘・天枢・大横） 前腕・下腿部の刺鍼（心経・脾経 愈土穴・経金穴・合水穴）	岩本
		背部への鍼灸実技（直刺・斜刺/施灸） 背部愈穴、飛揚、崑崙	前田
3		腹部への刺鍼（中脘・天枢・大横） 前腕・下腿部の刺鍼（心経・脾経 井木穴・榮火穴・絡穴・郄穴）	岩本
		補瀉法 各経脈の五行穴、背部愈穴、天枢	前田
4		腹部への刺鍼（腹通谷・育俞） 前腕・下腿部の刺鍼（肺経・腎経 愈土穴・経金穴・合水穴）	岩本
		気血津液弁証に対する鍼灸実技 血海、豊隆、気海俞、腎俞	前田
5		腹部への刺鍼（腹通谷・育俞） 前腕・下腿部の刺鍼（肺経・腎経 井木穴・榮火穴・絡穴・郄穴）	岩本
		六腑の弁証に対する鍼灸実技 募穴、下合穴、背部愈穴	前田
6		腹部への刺鍼（日月・章門） 下腿部の刺鍼（肝経・胆経 愈穴・経穴・合穴）	岩本
		外感病に対する鍼灸実技 各経脈の五行穴、大椎	前田
7		腹部への刺鍼（日月・章門） 下腿部の刺鍼（肝経・胆経 井穴・榮穴・絡穴・郄穴）	岩本
		臓腑の複合病証に対する鍼灸実技（中医学） 各経脈の原穴、絡穴、募穴	前田
8		腹部への刺鍼（巨闕・天枢） 前腕部の刺鍼（心包経・大腸経 愈穴・経穴・合穴）	岩本
		糸状灸 各経脈の五行穴、百会	前田
9		腹部への刺鍼（巨闕・天枢）	岩本

		前腕部の刺鍼（心包経・大腸経 井穴・榮穴・絡穴・郄穴）	
		鍼管を用いた十七手技	前田
		背部俞穴、肩井、手三里	
10		腹部への刺鍼（石門・関元）	岩本
		前腕部の刺鍼（三焦経・小腸経 俞穴・経穴・合穴）	
		前腕部（屈筋群）に対する鍼灸実技	前田
		内関、郄門	
11		腹部への刺鍼（石門・関元）	岩本
		前腕部の刺鍼（三焦経・小腸経 井穴・榮穴・絡穴・郄穴）	
		前腕部（伸筋群）に対する鍼灸実技	前田
		外関、手三里	
12		腹部への刺鍼（中脘・天枢・関元）	岩本
		背腰部の刺鍼（肝俞・心俞・脾俞・肺俞・腎俞）	
		前頸部の筋（胸鎖乳突筋・斜角筋）に対する鍼灸実技	前田
		天容、扶突、完骨	
13		総復習	岩本
		後頸部の筋（頭板状筋・肩甲挙筋）に対する鍼灸実技	前田
		肩外俞、肩中俞	
14		前期試験・復習	岩本
		後頸部の筋（脊柱起立筋）に対する鍼灸実技	前田
		玉枕、天柱、風池	
15		横刺	岩本
		座位での鍼灸実技	前田
		合谷、百会、身柱、背部俞穴	
31		肩背部の筋（僧帽筋・棘下筋）に対する鍼灸実技およびつまみ押手による刺鍼	井口
		肩井、天宗	
32		肩背部の筋（棘上筋・棘下筋）に対する鍼灸実技およびつまみ押手による刺鍼の確認	下宮
		肩井、曲垣、秉風、天宗	
33		肩背部の筋（三角筋）に対する鍼灸実技およびつまみ押手による刺鍼の確認	井口
		肩井、肩髃、肩内陵、臑俞	
34		肩背部の筋（大円筋・小円筋）に対する鍼灸実技およびつまみ押手による刺鍼の確認	下宮
		肩井、肩貞、臑会	
35		上腕の筋（上腕二頭筋、上腕三頭筋）に対する鍼灸実技および横刺の練習	井口
		天府、侠白、天井	
36		大腿部の筋（大腿四頭筋）に対する鍼灸実技および刺鍼転向法の練習	下宮
		髀關、伏兔、梁丘、血海	
37		大腿部の筋（ハムストリングス）に対する鍼灸実技	井口
		殷門、陰谷、膝関	

38		下腿部の筋（前脛骨筋、腓骨筋）に対する鍼灸実技および横刺の練習 足三里、豊隆、陽陵泉、光明、懸鐘、蠡溝	下宮
39		下腿部の筋（腓腹筋、ヒラメ筋）に対する鍼灸実技 下肢に対する鍼灸実技復習 合陽、承筋、承山、飛揚	井口
40		下肢に対する鍼灸実技復習 上記参照	下宮
41		腰部、臀部に対する鍼灸実技 腎俞、志室、腰眼、環跳	井口
42		試験前復習	下宮
43		試験	下宮・井口
44		試験	下宮・井口
45		下肢の疾患に対する鍼灸実技	井口
その他の事項			
【試験について】 ・前期試験は、佐藤・岩本の授業範囲の試験を実施します。試験の合格を以て試験成績の５５％に換算します。 ・後期試験は、下宮・井口の授業範囲の試験を実施します。後期の合格を以て試験成績の５５％に換算します。 試験不合格の場合は０点となり、再試験合格にて鍼灸実技Ⅰの評価は６０点となります。 尚、試験の補助または患者役として授業担当外の教員が入ることもあります。 【平常点について】 ・実技道具や実習着忘れ １回につき２点減点 ・無断欠席・遅刻 １回につき２点減点 ・課題未提出 １回につき２点減点 ・授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 １回につき５点減点 【注意事項】 １年次以上に鍼や灸が正確かつスムーズに扱えないと事故につながります。日々の練習を怠らないようにしてください。 実習着を忘れた場合、授業の見学については許可するが、実技への参加は認めません。 【２年次の最低到達目標】 鍼：誤差±３mm以内、指定された角度に対して±１０°以内 灸：３分間に米粒大９壮、半米粒大１１壮			

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	2 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0 時間	実施時間数	3 0 時間
担当教員	臼井/松尾/上田/下宮/棟居/高橋/金井/岩本/井口/佐藤				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	1 年次に学習した、臨床演習Ⅰの医療面接を基礎として、施術を行う上で必要な、病態把握、治療方針の設定、施術、評価について学習する。 臨床実習に臨むうえで必要な患者対応、衛生操作、安全な施術を教員の指示のもと行うことを目標とする。				
教 科 書	臨床演習マニュアル、実技実習身だしなみルール				

具体的な到達目標	
目標 1	医療人として相応しい整容ができる。(身だしなみルールに準じている)
目標 2	感染症を予防するための衛生操作が実施できる。
目標 3	医療面接におけるコミュニケーション技法を実施できる。
目標 4	患者への必要な声掛けを行うことができる。
目標 5	一定の方式に従ってカルテを書くことができる。
目標 6	教員の指示通り、安全に施鍼・施灸を行うことができる。
目標 7	鍼灸施術を体位変換含め（仰臥位～伏臥位）4 5 分間程度で行うことができる。
目標 8	指定された角度、深度で刺鍼することができる。指定された灸法、大きさで時間内に施灸することができる。
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	5 5 %		—		
平常点	1 0 %	算出方法	その他の事項に記載	—	算出方法
出席点	3 5 %	算出方法	その他の事項に記載	—	算出方法
その他		算出方法		—	算出方法
試験日	臨床前実技評価試験（はり・きゅう）				

★再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔臼井〕 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業 4 年、他治療院 2 年の勤務経験あり。 脳血管障害等のリハビリ病院にて、3 年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で 5 年間の実務経験あり。 〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 2 年間の実務経験あり。

	〔上田〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて2年、鍼灸あま指治療院にて2年間、往診専門で開業8年、本校附属治療所で10年間の実務経験あり。
	〔下宮〕はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて4年間の経験あり。他校附属治療院にて6年間の実務経験あり。本校附属治療所で6年間の実務経験あり。
	〔棟居〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて9年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて2年間、往診専門で2年間、本校附属治療所で15年間の実務経験あり。
	〔高橋〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。本校附属治療所で6年間の実務経験あり。
	〔金井〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて2年間の実務経験あり。鍼灸治療院にて2年間の勤務経験あり。本校附属治療所で6年間の実務経験あり。
	〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で2年の実務経験あり。本校附属治療所で3年間の実務経験あり。
	〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて2年間の実務経験あり。大学院鍼灸センターにて2年間、往診専門で4年間の実務経験あり。本校附属治療所で2年間の実務経験あり。
	〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で14年間の実務経験あり。

実務経験をいかした教育内容	本授業は、専任教員の東洋医学・西洋医学それぞれの現場での多様な実務経験から、あはき師の臨床上必要なコミュニケーションを含めた技術を教授する。
---------------	---

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		概要説明・医療面接の復習・鍼灸（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑨	
2		鍼灸通し①前半（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴④	
3		鍼灸通し①後半（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴④	
4		症例トレーニング1・鍼灸（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑨	
5		鍼灸通し②前半（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑤	
6		鍼灸通し②後半（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑤	
7		症例トレーニング2・鍼灸（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑨	
8		鍼灸通し③前半（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑥	
9		鍼灸通し③後半（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑥	
10		症例トレーニング3・鍼灸（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑨	
11		鍼灸通し④前半（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑦	
12		鍼灸通し④後半（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑦	
13		症例トレーニング4・臨床演習マニュアル配穴⑨	
14		鍼灸（仰臥位・伏臥位）臨床演習マニュアル配穴⑧	
15		総復習	
		臨床前実技評価試験	

その他の事項

【試験成績】：臨床前実技（はき）評価試験の合格を以って、本授業の試験成績の55%にあてる。

不合格の場合加点なし。再試験合格にて臨床演習Ⅱの評価は60点となる。

臨床前実技（はき）評価試験については全専任教員が試験監督として担当する場合がある。

【平常点】：10%

- ・身だしなみ違反：1回につき5点減点
- ・届出のない遅刻：1回につき5点減点
- ・授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合：1回につき5点減点
- ・実技道具や実習着忘れ：1回につき5点減点

※実習着を忘れた場合、授業の見学については許可するが、実技への参加は認めない

【出席点】：35%

- ・欠課10点/1回 ※欠課3回まで減点とする。4回以上の欠課は補講が必要となる

授業概要					
学 科	第2 鍼灸科	学 年	2 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	井口 智弘 / 松尾 卓				
授業形態	実 習	教 室	第1 実技室 第3 実技室 臨床実習室		
授業目的	はり師・きゅう師が治療を行う際には、患者の状態を正確に把握し、その状態に応じて適切な治療方針を検討し、実践しなければならない。よって患者の状態を正確に把握することは、効果的な治療に繋がる。また、状態によってははり師・きゅう師の診察や治療よりも、病院等への紹介が優先されることもある。そのため、本授業では患者の状態を把握するための東洋医学的・西洋医学的診察方法を修得し、得られた情報から患者の疾病の状態を推測することができるようになることを目的とする。				
教 科 書	授業のコマごとに指定する。また、担当者によってはプリントの配布を行う。				

具体的な到達目標	
目標1	望診から東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標2	問診から東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標3	切診から東洋医学的身体情報を得ることができる。
目標4	東洋医学的診察から得た情報を基に証を立てることができる。
目標5	徒手検査の所見から損傷組織、疾患の推測ができる。
目標6	MMT、ROM、腱反射、知覚検査の所見を正確に取ることができる。
目標7	正常な画像と比較し、画像上異常なところを見つけることができる。
目標8	その他診察に必要な検査法を体験する。
目標9	検査所見から、患者の病態を推測することができる。

評価と試験						
前 期				後 期		
試験成績	7 0 %			7 0 %		
平常点	1 5 %	算出方法	その他の事項に記載	1 5 %	算出方法	その他の事項に記載
出席点	1 5 %	算出方法	1 回の欠課で 3 点減点	1 5 %	算出方法	1 回の欠課で 3 点減点
その他		算出方法			算出方法	
試験日	後日伝達			後日伝達		

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の実務経験	〔松尾〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で1 2 年間の実務経験あり。 〔井口〕はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて2 年間の実務経験あり。大学院鍼灸センターにて2 年間、往診専門で4 年間の実務経験あり。本校附属治療所で2 年間の実務経験あり。		

実務経験をいかした教育内容	東洋医学の現場や西洋医学の現場における多様な実務経験から、はり師・きゅう師の臨床上に必要な診察技術を教授することができる。はり師・きゅう師の臨床上に必要な診察技術の取得、また得られた検査結果から東洋医学的および西洋医学的な患者の病態の把握ができるよう教育する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		授業ガイダンス、脈診（脈差診・脈状診）の所見	井口
2		脈診（脈差診・脈状診）の方法の習得	井口
3		傷寒論系腹診・難経十六難腹診の方法・所見の習得	井口
4		基本的問診事項（寒熱・飲食・睡眠・二便・情志・生活環境）	井口
5		その他の問診事項（各部位の症状・汗・疼痛・女性・既往歴・家族歴）	井口
6		全体望診、顔面診の方法・所見の習得	井口
7		募穴診の方法・所見の習得	井口
8		原穴診・要穴切穴の方法・所見の習得	井口
9		原穴診・要穴切穴の方法・所見の習得	井口
10		背候診の方法・所見の習得	井口
11		舌診・爪甲診の方法・所見の習得	井口
12		四診法の復習	井口
13		前期試験	井口
14		前期試験	井口
15		試験のフィードバック、復習	井口
16		徒手検査の説明、徒手検査（頸部神経根）	松尾
17		徒手検査（胸郭出口・肩関節周囲の確認）	松尾
18		徒手検査（上腕二頭筋部、肘関節付近筋・腱損傷の確認）	松尾
19		徒手検査（腰部神経根での神経の圧迫の確認）	松尾
20		徒手検査（股関節、仙腸関節付近の筋の障害、神経の圧迫の有無の確認）	松尾
21		徒手検査（膝関節部の靱帯、半月板損傷、足関節周囲の腱の損傷の有無の確認）	松尾
22		徒手検査の復習、血圧測定	松尾
23		知覚検査、腱反射（上腕部、膝、足関節部）、病的反射	松尾
24		ROMの説明、ROM（肩関節、肘関節）	松尾
25		ROM（股関節、膝関節、頸部）	松尾
26		MMTの説明、MMT（上下肢の筋）	松尾
27		MMT（体幹の筋）	松尾
28		全検査の復習	松尾
29		後期試験	松尾
30		後期試験	松尾

その他の事項

【試験について】

前期試験、後期試験ともに試験の合格を以て試験成績の70%に換算します。

不合格の場合は0点となり、再試験合格にて臨床診断学の評価は60点となります。

なお、試験の補助として授業担当外の教員が入ることがあります。

【平常点について】

実技道具や実習着忘れ 1回につき2点減点

無断欠席・遅刻 1回につき2点減点

授業中の無駄な私語や教員の指示に従わない場合 1回につき5点減点

【注意事項】

実習着を忘れた場合、授業の見学については許可するが、実技への参加は認めません。(欠席扱いとなります。)